

彼方「かなた」

校長通信
H29.4.7
Vol.3

【平成二十九年 第三十九回 入学式 式辞】

正門脇の満開の桜にいつい足を止めて見とれてしまう、このよき日に二四九名の新入生の皆さんをお迎えできたのは本当にうれしい限りです！皆さん入学おめでとう！保護者の皆様、本日はご入学、誠にありがとうございます。また、我孫子市教育委員会教育委員 長谷川 浩子 様を始め、多くのご来賓の皆様には、ご多用中にもかかわらずご臨席を賜り、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、新入生の皆さん、この式辞は、私が皆さんと一緒に過ごす中学校で最初の授業です。これから「人としての生き方」について一緒に考え、勉強する機会が沢山あります。今日はその第一回目だと思つて聴いてください。

こんな話を聞いたことはありませんか？アフリカの小さな国の小さな村がいつも干ばつで苦しんでいました。その村の人たちは、祈禱師に雨乞いをお願いしました。祈禱師も、みんなの笑顔を見たくて雨乞いを引き受けました。そして一心不乱に祈り、踊り続けるのです。するとポツリポツリと雨が降ってくるのです。日本の気象学者がその噂を聞きつけ、アフリカの小さな国の小さな村を訪ね、その祈禱師を調べたのです。噂通りその祈禱師が必死に祈り、踊り続けると必ず雨が降り出すのです。何度調べても必ず降るのです。そんなこと考えられます

か？でも本当なのです。日本の気象学者もその理由を聞いて「なるほど！」と笑顔になりました。さあ皆さん、その理由をどう考えますか？

実は、その祈禱師は、雨が降るまで一ヶ月でも二ヶ月でも村の人たちの笑顔を願ひ、一心不乱に踊り続けているだけなのです。だから彼が祈ると必ず雨が降るのです。「なーんだ！」なんて思わないでくださいね。さあ、このエピソードから私は何を皆さんに伝えたいと思つているでしょうか・・・？

そうです。今皆さんの頭に浮かんだ答えは、いろいろだと思いますがどれも正解です。私の頭に浮かんだのは、「あきらめない心」です。

アフリカの祈禱師のように周囲の人の笑顔を優先し、強い気持ちを持つて、最後まであきらめずにやり抜くのは、なかなか難しいことです。でも誰でもできることを誰もやらないぐらいやると必ず変化が起きます。

私は、皆さんにもあきらめずに自分の限界を超えていくつもりで行動して欲しいと思つています。それを「挑戦」と言います。

三年間、毎朝、立ち止まって会釈しながら明るく「おはようございます」と挨拶し続ける生徒がいました。毎日1ページの自主学習を続けた生徒がいました。一日も休まず部活動に参加し、用具を準備し続けた生徒がいました。学校が休みでも必ず学校の魚に餌を与えにきていた生徒がいました。

スキージャンプの葛西選手やサッカーの三浦選手、野球のイチロー選手のように普通はやめてしまつている年齢なのにトップアスリートとして活躍し続け

る人達がいいます。なぜ挑戦し続けられるのでしょうか？それは、「己のためだけでなく、多くの人々のために、そして世の中のために、大切な何かを成し遂げようとする強い気持ち「志」を持つているからです。白山中の校歌の中にも「純粋でぶれない志」という意味の「純乎志操」歌詞があります。

白山中学校の学校教育目標は、「みがき合い、支え合い、心豊かでたくましく生きる生徒」です。相手の「笑顔」を思い、自分から動けるたくましい生徒になつて欲しいという願いが込められています。

中学校生活は僅か三年です。何もしなくてもあつという間に過ぎてしまいます。真剣に取り組んでも同じです。どうせなら本気ですごい学校を作つてみることに「挑戦」してみませんか？

自分の役割と正面から向き合い、本気で取り組んでみる。周囲の人の笑顔を優先しながら自分の置かれた環境でベストを尽くす！学校にいるみんなが幸せを感じられる「笑顔満載」の学校をつくるのです！いかがですか？みなさんならここに居る先輩達と一緒に本気で「笑顔満載の学校づくり」に「挑戦」してくれるような気がします。

最後になりますが、ここに居る新入生や在校生のために、そして白山中を「笑顔満載の学校」にするために本日本お越しいただいたご来賓の皆様、保護者の皆様のお力添えを頂きますよう心よりお願い申し上げます、式辞とします。

平成二十九年 四月七日

我孫子市立白山中学校 校長 田中 聡